

- 1 テーマ名
きく栽培における育苗技術マニュアル化
- 2 目的
県内各地域（北部，中部，南部）におけるきくの育苗技術についてのマニュアルを作成する。
- 3 調査研究の内容
 - ・各地域における育苗作業実態調査（1年目）
 - ・調査結果に基づくマニュアルの作成（2年目）
- 4 成果
 - ・同じ調査地域においても，管理方法が異なっている。その理由としては，経営規模が異なることが一因と推察される。
 - ・同じ育苗管理作業においても，地域が異なると作業実施時期が異なっている。
 - ・調査結果については，添付資料参照。
- 5 普及指導活動における活用方法
次年度の調査研究成果とあわせマニュアルを作成し，きく育苗管理技術指導支援の参考資料とする。
- 6 留意事項

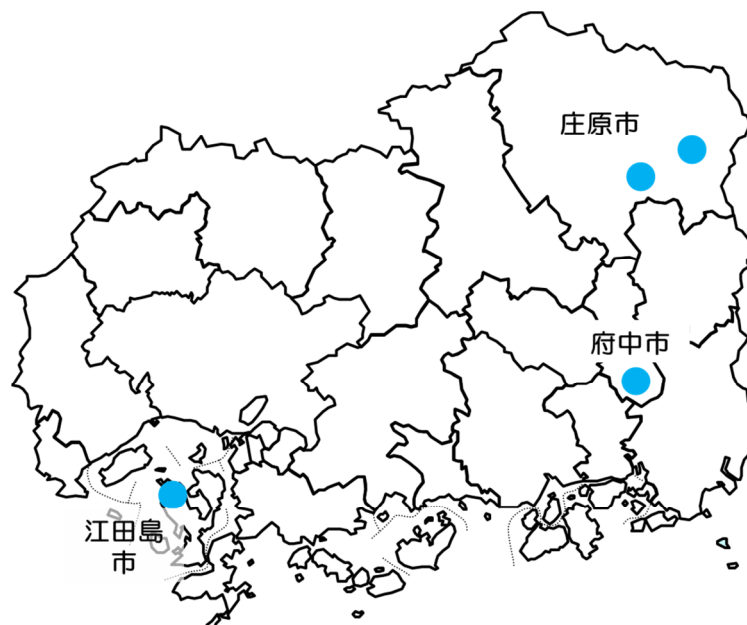


図 1. 調査対象の経営体の位置

表1. 育苗管理作業：庄原市T氏

株の管理状況		
日付	作業項目	作業内容
8/下	かぎ挿し	採花後株から出た芽を親株床(露地)に伏せこむ(かぎ芽)。
10/上	かぎ芽移植	かぎ芽を苗床ハウスに移植。土から出ている枝を切り、古い葉を取る。
12/上	地挿し	最初の冬至芽は捨て、2番芽、3番芽を5～7cmで採穂。 採穂した芽は温床(20℃)に地挿。年末にかけて次々と挿す。
2/中	最終摘心	
3/上	採穂・保存	2番芽、3番芽を5～7cmで採穂。育苗ポットに20～30本入れ、 ポットを発砲スチロールの箱に詰め蓋をして4℃で保冷(約2週間)。
3/下	挿し芽	オキシベロン2倍液に1～2秒浸漬。 128穴プラグトレイに挿芽。室温(ハウス、内張り、小トンネル)で管理。
4/中	定植	

表2. 育苗管理作業：庄原市M氏

株の管理状況		
日付	作業項目	作業内容
10/上～中	株伏せ込み	採花後株を地上部10cm根部5cmに整理し、育苗ハウスに移植。
12/中	挿し芽・摘心	冬至芽を摘心した後に、プラグトレイに挿し芽。 発根後、苗床ハウスへ定植。内張り、小トンネルで管理。
2/上～中	最終摘心	採穂を行う約25～30日前までに最終摘心。 最終摘心までに随時2～3回摘心を行う。
3/上～中	採穂・保存	5～6cm程度で採穂。穂木は3～4℃冷蔵(20日間まで)。
4/上	挿し芽	オキシベロン液剤100～200倍に浸漬後、200穴プラグトレイに挿し芽。 温床線(20℃まで)で15日前後管理
4/下	定植	

表3. 育苗管理作業：府中市S氏

株の管理状況		
日付	作業項目	作業内容
11/下	株伏せ込み	採花後株を根部5～7cmに整理し、育苗ハウスに移植。 株間10cm、条間15cm、N3kg/10a施肥。小トンネルで管理。
1/下	地挿し	冬至芽を5～7cmに調整し、育苗ハウス内の別床に挿し芽。 冬至芽を採取した株を刈り込む(切り戻し)
2/中～下	摘心	立ち上がった新芽をすべて摘心。
3/中	最終摘心	採穂の25～30日前に本葉5～6枚残してすべて摘心。
4/上	挿し芽	6～7cmで採穂(手で折り取る)、128穴プラグトレイに挿し芽。
4/下	定植	根の長さが1cm程度に発根したら定植適期。

表4. 育苗管理作業：江田島市T氏

株の管理状況		
日付	作業項目	作業内容
11/上	株伏せ込み	採花後株を育苗ハウスに移植
11/下～	刈り込み (適宜)	地上部をバリカンで刈込む (理想は1回だが、2、3回刈り込む)
3/下	挿し芽	6～7cmで採穂(手で折り取る)